

宮崎県の発生農場（第4例目）に係る疫学調査チームの調査結果概要 （平成23年1月29日実施）

1月29日に実施した現地調査の結果、以下のことを確認した。

1 発生農場の周辺環境

- ① 発生農場は、平野部にあり周囲は畑作地に囲まれている。水鳥が飛来するような、ため池等は周囲にはないとのことであった。
- ② 8棟ある鶏舎の中の発生鶏舎は、農場入口に最も近い場所に位置していた。

2 管理者

- ① 鶏舎への出入りの際は専用の作業着及び長靴への交換を行い、踏込消毒も実施していた。
- ② 管理者は、最近の海外への渡航歴はない。

3 鶏舎の飼養衛生管理

- ① 発生農場の飼料タンクは各鶏舎ごとに1カ所設けられ、タンク上部に蓋がされており野鳥の接触や糞の混入の可能性は低いと考えられた。
- ② 飼料の運搬車両は、農場の入口付近で噴霧消毒を実施しているとのことであった。
- ③ 鶏糞は、オールアウト後に委託業者により処分されるとのことであった。

4 野鳥・害獣対策

- ① 発生農場付近ではカラスが多く確認されとのことであった。
- ② 発生鶏舎は金網（直径約2cm～3cm程度）と遮光カーテンによって野鳥等の侵入防止を行っていた。聞き取りによると、鶏舎内で野鳥を見かけたことはないとのことであった。
- ③ 発生鶏舎の側壁下部にネズミ等が出入り可能な隙間が認められた。

5 死亡鶏の取扱い

死亡鶏は、ローダーのバケットに收容して農場入口の外に置き、毎日、委託業者が回収するとのことであった。

なお、その業者は3例目の発生農場の死亡鶏も扱っていたが、管理者によると当該業者が農場敷地内に立ち入ることはなかった。